

# 自然薯班

## 郡上高校オリジナルの自然薯を栽培し、地域に発信しよう

### 〈メンバー〉

藤村崇平 池戸崇幸 籠谷英輝 沢田剛志 西川大智 山内翔吾

### 〈活動テーマ〉

- (1) 自然薯について、知識を深め良質な自然薯を栽培する。
- (2) 本校の土壤に合った栽培方法を見つける。
- (3) 販売会で地域の方々に本校の自然薯を知ってもらう。

### 〈テーマ設定理由〉

- (1) 品質の良い商品を、栽培するためにどのように工夫したらよいかと考えた。
- (2) 本校独自の栽培方法を考え、新たな栽培方法を見つけたいと考えた。
- (3) 販売や接客などを通して社会常識を身につけ今後に生かしたいと考えた。

### 〈主な年間活動〉

- 3月………おくみの自然薯組合の田村さんから自然薯栽培を学ぶ  
4～5月………定植の準備、種芋・むかごの定植  
6～9月………ネット張り、肥料散布、畑の整備、自然薯管理、除草  
10～12月……むかごの収穫・自然薯の収穫・実習生産物販売会

### 〈活動内容〉

種芋である一本苗は、山口県にある(株)政田自然農園、ウイルスフリー苗は、群馬県にあるカネコ種苗より購入している。そこで本年度は森林科学科棟前に205本、憩いの森前に波板45本、クレバーパイプ20本、試験区に30本定植し合計300本とした(表1)。

表1 自然薯定植の内訳

場所	定植方法	傾斜角(°C)	本数
森林科学科棟前	波板	15	205
憩いの森前	波板	15	45
憩いの森前	クレバーパイプ	15	20
試験区A	波板	10	15
試験区B	波板	20	15
合計			300

## 〈試験区〉

### (1)むかご

むかごを土中で成長させると2年後には「自然薯」になることを知った。そこで、むかごを種芋にしようと試験区を設定した(写真1)。

#### 作業手順

- ①角度20℃の傾斜をつけ畝を2つ作る
- ②畝上に波板をのせる
- ③赤土を波板にかぶせる(写真1)
- ④むかごを定植後、黒土を被せる
- ⑤黒マルチで全体を覆う
- ⑥とんぼで黒マルチを留める
- ⑦支柱を立て、ネットを張る(写真2)



写真1 むかご定植

#### 結果

土をかぶせる量が少なかったため降雨後、むかごがむき出しになっていた。また夏場の暑さ対策をせず水やりもしなかったのが枯れてしまった。下調べを怠り管理不足が招いた結果である。



写真2 ネット張り

### (2)自然薯

自然薯は通常、角度15℃で栽培している。傾斜角度を変えることによって、どのような変化が見られるか検証しようと試験区を設定した。

#### 作業手順

- ①試験区A・Bを作りAの角度を10℃、Bの角度を20℃に設定
- ②試験区A・Bに15本ずつ定植
- ③黒マルチを敷き支柱を立てネットを張る

#### 結果

表2 試験区の自然薯収穫量

試験区	本数	800g以上	700～600g	500～400g	300g以下
A(角度10℃)	15	0	3	7	5
B(角度20℃)	15	5	5	4	1
合計	30	5	8	11	6

試験区AよりBの方が、長く重い良質な自然薯が多く収穫する事ができた(表2)。

## <収穫>

### (1)自然薯

森林科学科棟前では、205本収穫できた(写真3)。憩いの森前では、波板45本、クレバーパイプ20本を収穫し合計270本となった(表3)。



写真3 収穫の様子

表3 自然薯収穫量

場所	本数	800g以上	700～600g	500～400g	300g以下
森林科学科棟前	205	23	45	62	75
憩いの森前	45	12	12	15	6
憩いの森前	20	2	7	6	5
合計	270	37	64	83	86

### (2)むかご(写真4)

平成21年、22年度と比較してみると、年々収量が増加している(表4)。

表4 むかごの収穫量

	H21	H22	H23
収穫量	8.8kg	13.4kg	21.5kg



写真4 むかご

## <実習生産物販売会>

販売会では多くの地域の方々に来ていただき、私達が栽培した自然薯やむかごを買っていただいた。パックは思った以上に売れたが、むかごは不人気でした(表5)。お客様に積極的に声をかけたことで商品を買っていただけたと思う(写真5)。

表5 販売会の売上金

項目	単価	数量	売上
一本物	¥240/100g	65.6Kg	¥157.200
パック	¥1000	49個	¥49.000
むかご	¥200	53袋	¥10.600
売上合計			¥216.800



写真5 販売会の様子

本年度は、一本物を平成21年、22年度より多く収穫することができ販売できた。形の悪いものや、折れたものが少なかったため、パックの売上が減った(表6)。

表6 販売会の売上金の比較

項目	H21	H22	H23
一本物	¥149.057	¥174.648	¥199.200
パック	¥116.000	¥90.000	¥64.000
むかご	¥8.800	¥13.400	¥15.600
売上合計	¥275.048	¥278.048	¥278.800

### 〈まとめ〉

- (1)本年度は、昨年に比べると細く、軽い自然薯が多かった。
- (2)知識を深めるため試験区を作り研究し栽培することができた。
- (3)独自の試験区を作り、どうすれば良質な自然薯が栽培できるかを研究することができた。
- (4)実習生産物販売会を通して接客対応など、社会へ出て必要なことを学ぶ事ができた。

### 〈今後の課題〉

- (1)本年度は、むかごから種芋を育てるために試験区を設定したが、すべて枯れてしまった。  
原因は、水やり不足、土の流出などが考えられる。そこを改善し次年度は成功させてほしい。
- (2)自然薯を地域の人に知ってもらおうというテーマで活動を行ってきたが、栽培することしか手が回らなかった。販売会では自然薯があまり注目されなかったので、事前に広告を配るなどして地域の方々に認知してもらえるような宣伝活動をしてほしい。
- (3)本年度は細いものが多く、その分売上が減ってしまったので、試験区の設定を練り直し、より太い自然薯を栽培してほしい。